

国土交通省長岡国道事務所

訪問日：平成 16 年 11 月 15 日

訪問班：物流システム班（松本、谷口、山田、相浦、安東）

分類別：復旧・復興状況

キーワード別：道路、輸送、交通ネットワーク

調査結果

- ① 国道 8 号で生じた交通渋滞は、見附市坂井における交通量の観測値（図-1(a)、(b)）からも推察される。特に上り方面では、2004 年 10 月 25 日の同地点での日交通量が、地震発生以前と比較して上り方向（長岡方面）で増加している。その内訳を見れば、大型貨物車交通量が減少しているにも拘わらず、乗用車および小型貨物車の交通量の増大が顕著である。

- ② 広域物流への影響は主要国道の大型貨物車交通量の観測値からも確認できる。i) 国道 8 号（見附市坂井（図-1(a)、(b)））では、地震発生前の一週間において日平均 2,458 台（上り方面）・2,493 台（下り方面）であった大型貨物車交通量が、地震発生後の一週間では日平均 1,389 台（上り方面）・1,138 台（下り方面）にまで減少した（49%減少）。同様に、国道 17 号（長岡市滝谷（図-2(a)、(b)））においても、24 日長岡市高畑で全面通行止め、25～30 日の間車線制限があり、地震発生前の一週間において日平均 2,170 台（上り方面）・2,108 台（下り方面）であった大型貨物車の交通量が、地震発生後の一週間では日平均 380 台（上り方面）・511 台（下り方面）にまで減少している（79%減少）。ii) 国道 8 号および 17 号の迂回経路の一つとして、国道 116 号が利用されたものと推察される。国道 116 号の大型貨物車交通量の推移に注目すれば、地震発生前の一週間において、寺泊町碓田（図-3(a)、(b)）で日平均 1,919 台（上り方面）・1,590 台（下り方面）であった交通量が、地震発生後の一週間では日平均 2,748 台（上り方面）・2,456 台（下り方面）に増加し（48%増加）、刈羽村刈羽（図-4(a)、(b)）においても、地震発生前の一週間において日平均 1,594 台（上り方面）・1,400 台（下り方面）であった交通量が、地震発生後の一週間では、日平均 2,562 台（上り方面）・2,256 台（下り方面）に増加した（61%増加）。特に、2004 年 10 月 24 日から同 26 日までの増加傾向は顕著であり、10 月 26 日には増加のピークに達している。iii) ただし、地震発生から約 1 週間が経過した 2004 年 10 月 31 日から 11 月 6 日の期間においては、いずれの観測地点においても、大型貨物車交通量に地震発生以前の状態への回復傾向が見られる。また、地震発生から約 2 週間が経過した 2004 年 11 月 7 日から 11 月 13 日までの期間においては、大型貨物車交通量が地震発生以前の状態にまでほぼ回復している。

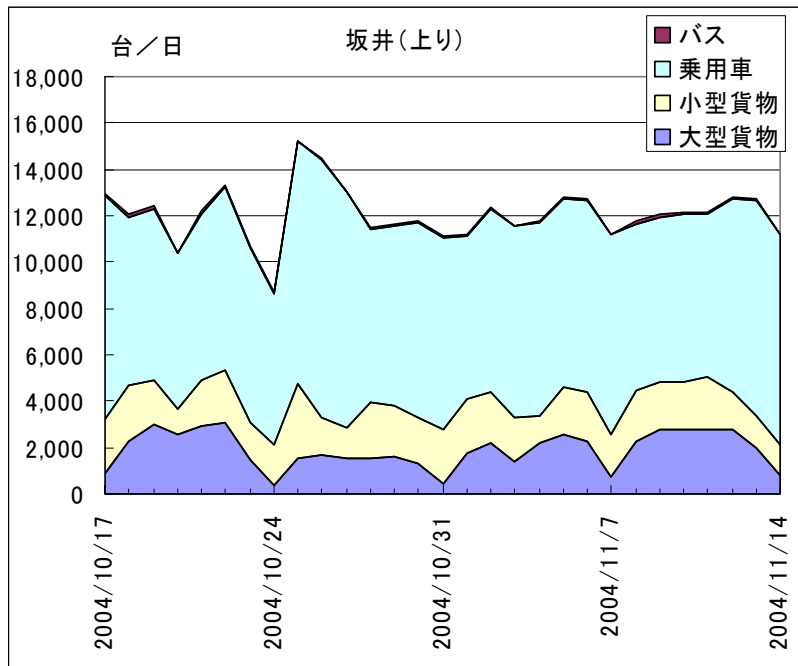


図- 1(a) : 交通量の推移 (一般国道 8 号 : 見附市坂井 [上り])

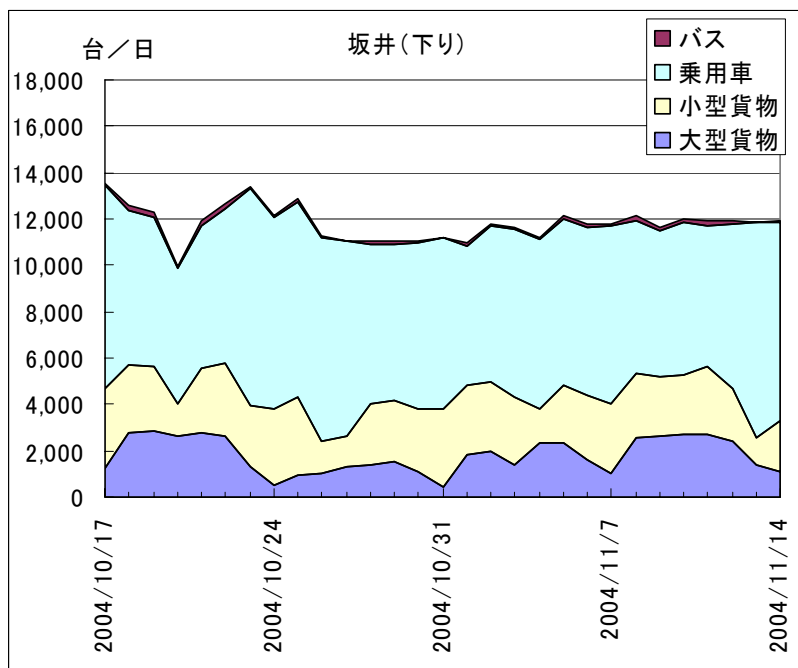


図- 1(b) : 交通量の推移 (一般国道 8 号 : 見附市坂井 [下り])

出所 : 国土交通省 長岡国道工事事務所 常時観測データ

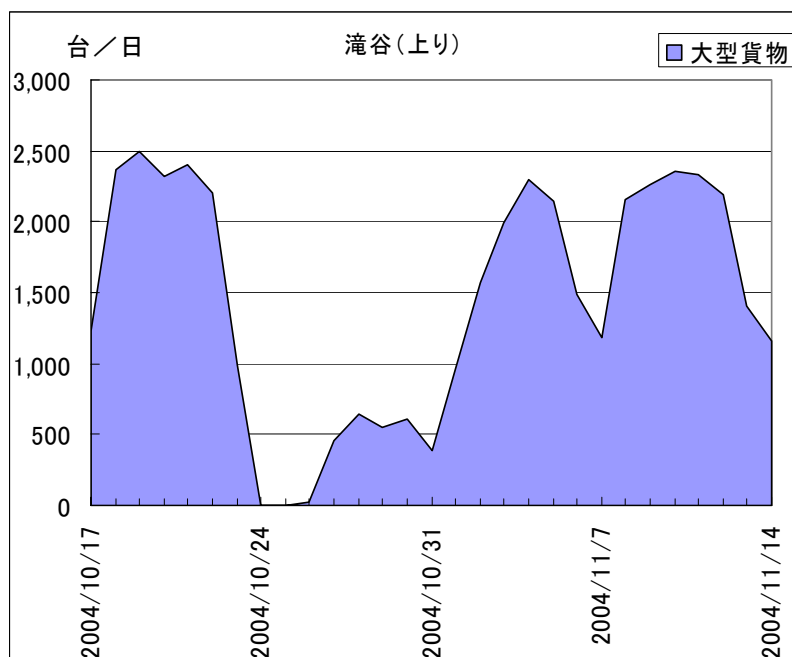


図- 2(a) : 大型貨物車交通量の推移 (一般国道 17 号 : 長岡市滝谷 [上り])

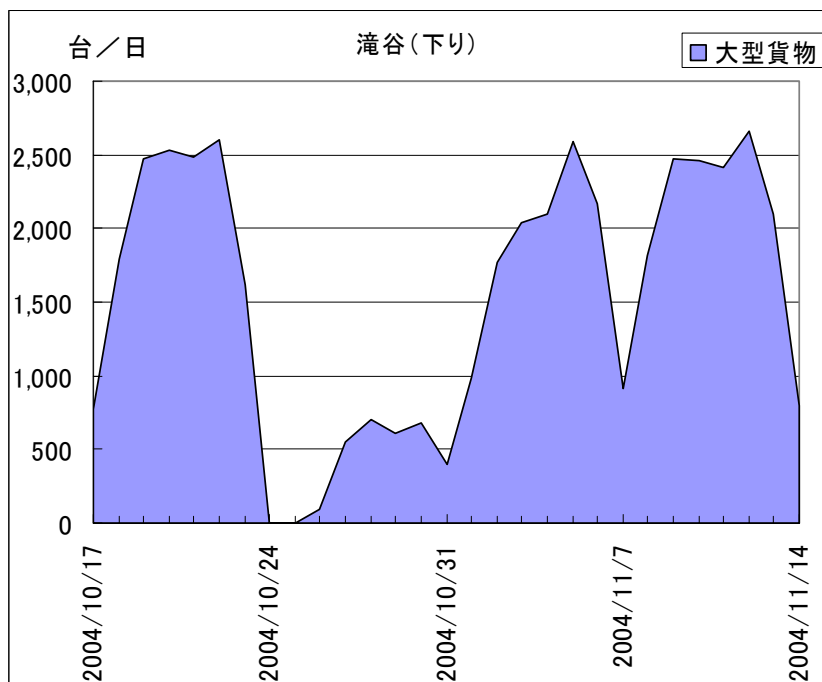


図- 2(b) : 大型貨物車交通量の推移 (一般国道 17 号 : 長岡市滝谷 [下り])

*データ欠損期間 : 2004 年 11 月 23 日 17 時 ~ 2004 年 11 月 26 日 20 時

出所 : 国土交通省 長岡国道工事事務所 常時観測データ

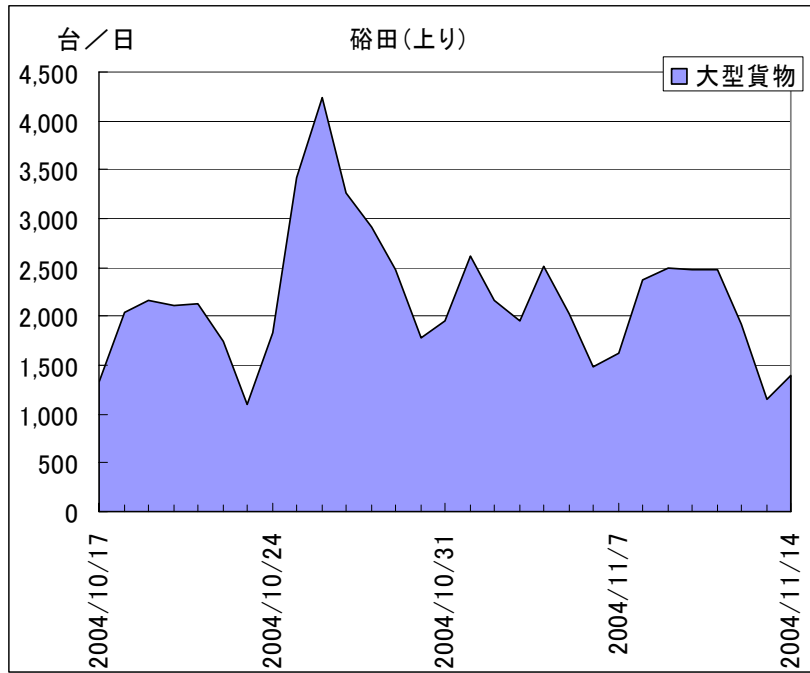


図- 3(a) : 大型貨物車交通量の推移 (一般国道 116 号 : 寺泊町碓田 [上り])

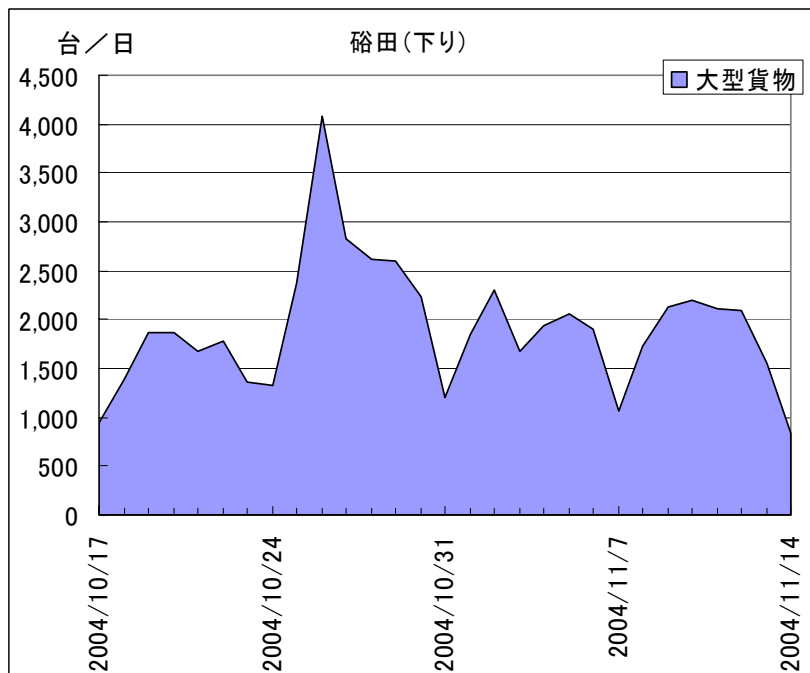


図- 3(b) : 大型貨物車交通量の推移 (一般国道 116 号 : 寺泊町碓田 [下り])

出所 : 国土交通省 長岡国道工事事務所 常時観測データ

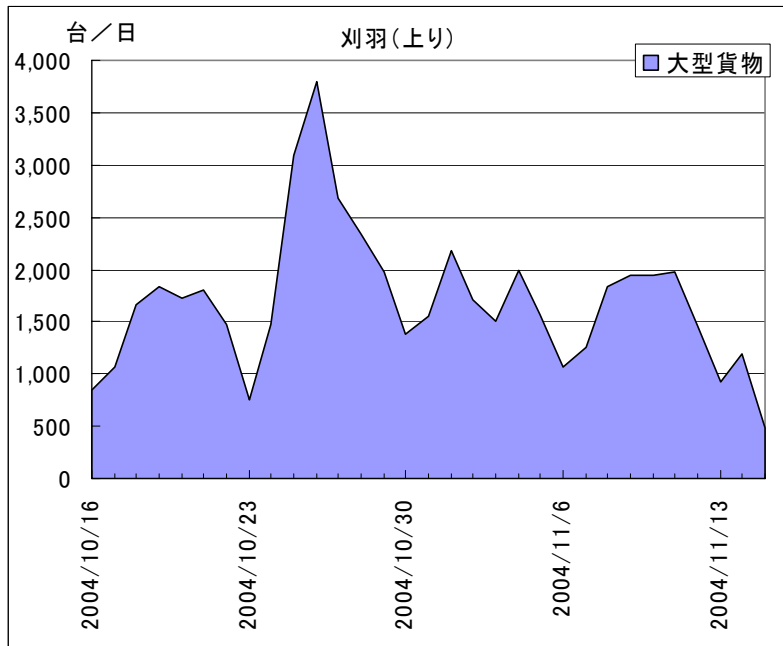


図- 4(a) : 大型貨物車交通量の推移 (一般国道 116 号 : 刈羽村刈羽 [上り])

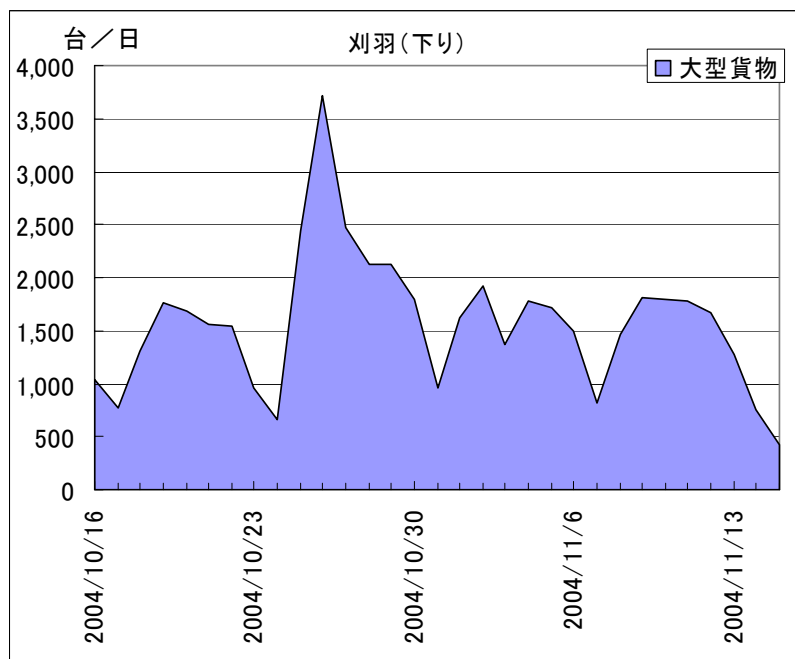


図- 4(b) : 大型貨物車交通量の推移 (一般国道 116 号 : 刈羽村刈羽 [下り])

出所 : 国土交通省 長岡国道工事事務所 常時観測データ